

2020年7月8日

新型コロナウイルス収束後の「移動と交流」を考える談話会 (総合討論)のへのお誘い(Ver.05)

呼びかけ人代表 北陸先端科学技術大学院大学 敷田麻実

7月11日の13:30～16:30(予定)で、今まで9回の議論を重ねてきた「新型コロナウイルス収束後の「移動と交流」を考える談話会」の総合討論会を開きます。この総合討論会は、今までの談話会の参加の有無に関係なく、参加できます。

当日は、観光庁、北信越運輸局、県庁や市町村担当者も参加予定です。北陸地域を越えて議論を深めたいと思います。

基本的な報告や問題提起は、北陸の観光研究者が行いますが、参加者は北海道、高知、関西など全国です。また研究者だけではなく、研究者と実務家、行政担当者、マスコミ関係者が議論する総合討論の場です。

観光研究者が枠組みを提示し、それを多様な参加者が議論する新しいスタイルの、いわば「フォーラム」のような場です。どうぞふるってご参加ください。

なお、定員の上限50名または2日前の7月9日24時になりましたら、参加締め切りとします

【総合討論会の設定】

当日のスケジュール

- 13:00 ログイン開始(13時から入室し、ご準備いただけます)
- 13:30 開会と主旨説明
- 14:00 分科会の開始
- 15:20 分科会終了
- 15:30 分科会報告(各5分と質疑)
- 16:20 全体のまとめ
- 16:30 終了予定

6つの分科会のどれかに参加して頂き、各分科会で解題者による話題提供の後、今までの議論をふり返った上でさらに議論します。結果は、各分科会からまとめて報告し、最後に全体議論をします。なお途中で分科会を移ることも場合によっては可能です。

なお議論は、分科会の最初で解題者から説明があり、それに従ってなされた各回の議論の内容を、ファシリテーターが補足します。その上で皆さんで議論して頂くことになります。

以下が分科会のテーマ(予定)です。各分科会の主旨は後述します。

- 1_文化と観光のせめぎあい：アフターコロナ時代の観光文化の再構築
- 2_自由な観光と監視のはざま：非日常行動の監視と観光
- 3_経済システムの揺らぎと観光：観光システムの再構築の姿
- 4_モビリティ(移動)と観光の変容：移動なき観光の可能性
- 5_コロナ禍以後の観光：「一般生活者・観光者」の民俗的視点から
- 6_観光地のレジリエンス再構築：リスク対応のためのガバナンス

【お申し込み】

下記 URL から、質問にご回答いただき申し込んで下さい。

<https://forms.gle/tWdifoAJ1FB787An7>

申し込めない場合には、as-asami@jaist.ac.jp(敷田)までメールして下さい。

是までの議論の経過はこちらです。なおお申し込み頂いた方には、議論の内容を記録した資料を事前にお渡しします。

http://www.jaist.ac.jp/~as-asami/corona_project_hotnet.html

【背景と経過】

1月から始まり急激に感染が広がって、社会的、経済的変動をもたらした新型コロナウイルスですが、ようやく収束の兆しも見えています。まだ余波の影響も懸念されていますが、一方で回復や社会の対応も進んできました。

コロナウイルス感染拡大の影響を受けたのは、観光活動と観光業です。世界の GDP の 10%以上を占めるとも言われる観光消費は、大きく落ち込みました。また外出や移動に厳しい制限がかかり、集まって交流することも「三密回避」で規制されています。この2つの要素を持つ「観光」は、

そのため、「北陸観光研究ネットワーク」では、5月2日から「新型コロナウイルス収束後の「移動と交流」を考える談話会」を毎週末、9回にわたって開催してきました。これは、北陸地域の観光研究者が、コロナウイルス感染収束後に観光がどのように変化するか、またこれまでの観光は社会にとってどんな役割や存在であったのか、などのコロナウイルス感染拡大を体験した今、社会変動の中での観光のこれからやこれまでを議論します。

【発起人】(あいうえお順、敬称略)

赤穂 雄磨 (北陸先端科学技術大学院大学)

朝倉 由希 (文化庁地域文化創生本部)

井出 明 (金沢大学)

江川 誠一 (福井県立大学)

川澄 厚志 (金沢星稜大学)

小平 達夫 (富山短期大学)

齋藤 千恵 (金沢星稜大学)

沢田 史子（北陸学院大学）
敷田 麻実（北陸先端科学技術大学院大学）
中子 富貴子（公立小松大学）
信川 景子（金沢星稜大学）
東野 善男（富山短期大学）

【この談話会の目的】

コロナウイルスの感染拡大で大きく変化した研究活動や大学教育ですが、私たちの専門、や「共通のテーマ」である観光も大きく影響を受けています。特に観光は、現在制限されている「移動」と「交流」を大きな要素として発展してきたため影響は甚大です。しかし、対策に右往左往する中では、将来が見えてきません。

そこで、コロナウイルス収束後の新たな観光の構造や課題について意見交換し、意見交換と議論で、改めて第三者視点も含めた観光の未来、新しいレジーム(枠組み、体制)を考えたいと思います。ただし、性急に答えを求めるのではなく、多様な議論ができることが目的です。

【参加ルール】

- (1) この談話会での発言は自由な発想に基づくものであり、発言で個人や所属団体の責任を問うことはない
- (2) この談話会での発言を、本人に確認せずに他のメディアに引用や転載してはならない
- (3) この談話会での発言の(記録)著作権は、共同著作権として処理する
- (4) 根拠のない専門的発言(〇〇だと思う、など)は、そのことを明示して行う(専門家の根拠に基づいた発言と理解されるため)
- (5) 必要に応じ、Webなどで談話会の開催については告知するが、記録などの情報の公開は発言者の同意を必要とする

【各分科会の主旨(内容の一部を当日までに修正することがあります)】

1_文化と観光のせめぎあい：アフターコロナ時代の観光文化の再構築

文化資源は、観光の目的地となり得るという点で、文化と観光は密接なかかわりがあります。また、観光も、芸術鑑賞等の文化体験も、その場に行きリアルに見聞きし体験することに価値がある(とされてきた)という共通点があります。移動と交流が制限される今、観光も文化も大きな影響を受け、文化分野も観光分野も、オンラインの活用、デジタルコンテンツの提供が爆発的に進んでいます。リアルな体験に勝るものはないと思いつつも、オンラインならではの、これまでにないコンテンツも登場している今、これからの可能性と懸念を議論します。

2_自由な観光と監視のはざままで：非日常行動の監視と観光

観光では観光客が自由に主体的に移動し、価値を創出することが前提です。しかし、ICT

の発達した現代社会では、コロナウイルスの感染拡大防止のために行動監視アプリが開発されるなど、観光や交流行動の「環視」も強まっています。観光は日常の環視や監視から逃れて脱日常を楽しむためのものという常識はどう変化するのでしょうか。観光の持つ自由と制約を考えます。

3_経済システムの揺らぎと観光：観光システムの再構築の姿

地域経済への呼び水として常に経営や経済から議論されてきた観光ですが、地域にとってあらためて観光の可能生や不可能性を問うときです。地域資源を提供して付加価値を生み出し、それを地域と観光客、事業者が分け合うモデルは価値創出が拡大する限りは安泰ですが、それができないときにどのように変容するのでしょうか。それに対応する観光ガバナンスやレジリエンスはどのように構築するのでしょうか。地域からのツーリズム、観光スタイルを提案するために議論します。

4_モビリティ(移動)と観光の変容：移動なき観光の可能性

大きく制限された移動、交流から観光の変容を考えます。コロナウイルスの感染拡大以前から、観光ではデジタル化、オンライン化が進められた真下。また ICT や AI の普及、発展によって、観光地へのアクセスや観光情報の取得は、まさに劇的な変化をしてきました。「移動しない観光」はコロナウイルス収束以降も定着するのでしょうか。観光の新しい姿とモビリティの課題を考えます。

5_コロナ禍以後の観光：「一般生活者・観光者」の民俗的視点から

地域の一般生活者(住民)と観光者の直接、対面による「雑談」「3密」の重要性やこうした危機に「対峙」する一般生活者と観光者の「民俗的世界観・観光観」の違い、さらには、アフター・コロナ時代の観光について、「民俗的」世界観の視点から「ホスト・アンド・ゲスト」論を再考します。

6_観光地のレジリエンス再構築：リスク対応のためのガバナンス

観光まちづくりの動きとともに期待されてきた「着地型観光」、着地で観光サービスを創出するという消費地への対抗軸は、ユニークな地域資源の所有とその活用を背景として2000年代以降の可能で注目されてきました。地域による地域からのスモールスケールツーリズムは、アフターコロナの近隣観光からの回復過程の中で、地域にとってどのような意味や役割を持つのでしょうか。事例を紹介しながら、議論します。